

令和7年第1回定例会6月議会 発言通告一覧表

市議会の本会議は、どなたでも自由に傍聴できます。本会議は午前10時から開会します。傍聴される方は議会棟3階傍聴者ロビーへ直接お越しください。発言内容の詳細については、次ページ以降をご覧ください。

発 言 順 位

6月16日(月)

(1)	竹 内	きよ子	議員	(明石かがやきネット)	………P 2
(2)	中 村	茂 雄	〃	(明石維新の会)	………P 4
(3)	千 住	啓 介	〃	(自由民主党明石)	………P 5
(4)	梅 田	宏 希	〃	(公 明 党)	………P 6
(5)	山 中	裕 司	〃	(市 民 の 会)	………P 8
(6)	寺 井	吉 広	〃	(明石かがやきネット)	………P 9
(7)	正 木	克 幸	〃	(明石維新の会)	………P 10
(8)	出 雲	有希子	〃	(自由民主党明石)	………P 11

6月17日(火)

(9)	尾 倉	あき子	議員	(公 明 党)	………P 12
(10)	山 下	祥	〃	(市 民 の 会)	………P 13
(11)	宮 坂	祐 太	〃	(明石かがやきネット)	………P 14
(12)	高 尾	秀 彰	〃	(明石維新の会)	………P 15
(13)	井 藤	圭 順	〃	(自由民主党明石)	………P 17
(14)	河 村	和歌子	〃	(公 明 党)	………P 18
(15)	中 川	夏 望	〃	(市 民 の 会)	………P 19

6月18日(水)

(16)	灰 野	修 平	議員	(自由民主党明石)	………P 21
(17)	黒 田	智 子	〃	(市 民 の 会)	………P 22
(18)	上 田	雅 彦	〃	(市 民 の 会)	………P 24
(19)	金 尾	良 信	〃	(市 民 の 会)	………P 26
(20)	辻 本	達 也	〃	(日 本 共 産 党)	………P 27
(21)	中 西	礼 皇	〃	(対話の会あかし)	………P 28
(22)	家根谷	敦 子	〃	(ス マ イ ル 会)	………P 29

※ 順位については予定です。

令和7年第1回定例会6月議会発言通告一覧表

発言順位	1	議 員 名	竹 内 きよ子（明石かがやきネット）
発 言 事 項	1 丸谷市長の目指す明石市の取組について (1) 対話と共創の第1ステージの成果や課題を踏まえ、どのように第2ステージにつなげていくのか。 （要旨）まるちゃんポストやタウンミーティング、ワークショップ等の取組から市民目線のまちづくりを進めていくという決意のもと、第2ステージはどのように市民の意見を施策に反映していくのか、市の見解を問う。 (2) 市長の目指す明石市役所の組織としての人材育成の指針とは。 （要旨）働き手の価値観の多様化、デジタル社会の進展等、複雑・多様化する行政課題に対応するためには、市長のもとで人事担当部局と庁内各部局が連携を図り、人材確保・育成に努める必要がある。また、専門人材の不足などの問題にも対応しながら、職員の能力を最大限に引き出し、多様な働き方を受け入れる職場環境づくりも必須になってくる。市は具体的にどのような方針を掲げていくのか、市の見解を問う。 2 高丘小中一貫教育校について (1) 5年目を迎えるに当たり進捗状況の課題と検証について （要旨）開校以来、少人数学級編成をはじめ、外国語専科教員による授業の実施、ALTの配置、家庭科教員の出前授業など、特色ある取組を推進してきている。義務教育9年間を通じて、教員が目指す子ども像の実現に向けて、取組をどのように実践してきたのか。また、今後の展望も含め、市の見解を問う。 (2) 通学区域特認校制度について （要旨）開校されてから4年が経過し、その間、通学区域外からの応募がどのように推移してきたのか。今後の見通しも含め、市の見解を問う。また、今後、スクールバスの導入等、工夫の余地について、市の見解を問う。 3 子育て支援のさらなる充実に向けて (1) 待機児童解消に向けて。 （要旨）令和7年度の待機児童数は56名になっているが、4月入所の申込みに対して具体的にどのような対策をされているのか。地区別では大久保地区が46.4%と全体の約半分を占めているが、その対策も含めて、市の見解を問う。		

発言順位	1	議 員 名	竹 内 きよ子（明石かがやきネット）
発 言 事 項	(2) 保育施設入所に関する加算制度の見直しについて （要旨）育休退園制度が今年４月から廃止になり、助かるとの市民の声を聞くが、きょうだいと同じ施設に通園できるようにするために、加算制度の見直しを検討してはどうか。また、市立こども園を他の保育園と同条件にはできないのか。市の見解を問う。		

発言順位	2	議 員 名	中 村 茂 雄（明石維新の会）
発 言 事 項	1 地方公務員の地域貢献に関する兼業について (1) 部活動地域展開における教職員の兼職・兼業に関する本市の考え方について （要旨）部活動の地域展開に向け、指導者の確保が大きな課題となっていると聞く。人材確保及び社会貢献の観点から、教職員の兼職・兼業を認めることが重要であると考えているが、本市の見解を問う。 (2) 副業・兼業に関する規定の取扱いについて （要旨）総務省は、地方公務員の副業・兼業を促しており、現状の原則禁止から緩和し、地域に貢献し課題解決につながる活動を幅広く認め、地方公務員の働き方の自由度を高め、人材確保も目指している。公平性・透明性を確保し、地域貢献に関する規定を策定し、積極的に促進すべきであると考えているが、本市の見解を問う。		
	2 学校における子供の安全を守るための取組について (1) 教育と啓発活動の強化について （要旨）闇バイトに手を染めるきっかけがSNS上の募集であることも多い。スマホを持つ児童生徒が、興味本位で楽に高収入が得られる等のうたい文句に誘われないよう、指導していく必要がある。小学校・中学校・高校において、事例を交えた専門的な授業を行うことはできないか、本市の見解を問う。 (2) ネット社会の構造やそこに潜む危険性を児童生徒に気づかせる取組について （要旨）若年層を守るためには、学校でのメディアリテラシー教育（偏った情報を取捨選択できる力を身につけること。安易に個人の情報をネット上に公開することの危険性に対する指導など）が不可欠と考える。児童生徒が自身でリスクを見抜き、犯罪に巻き込まれないよう、模擬シナリオによる実践的なリスク教育も効果的であり、自分を守る力を身につける教育が必要であると考えているが、本市の見解を問う。		

(代表質問)

発言順位	3	議 員 名	千 住 啓 介 (自由民主党明石)
発 言 事 項	1 本市の大型公共工事について (1) 西明石地域交流センター i c o t t o 並びに新中崎分署建設について (要旨) この案件は、落札者側の都合で契約辞退となった。この件に伴う経緯と本市への影響について、見解を問う。 (2) 今後の本市の公共工事の在り方について (要旨) 現状の公共工事の制度が妥当なのか。今までの考え方を地域経済の活性化、次代の担い手不足の解消に向けた公共工事の制度に改めるべきだと考える。今後の公共工事の方向性を問う。 2 新ごみ処理施設整備・運営事業について (1) 優先交渉権者選定基準について (要旨) 本市の財政状況はよくはない。しかしながら、予算面だけで事業者を決定するわけにはいかない。今回の選定基準の本市の見解を問う。 3 本市の財政について (1) 令和 1 1 年度からの収支差額赤字転落について (要旨) 財政白書によると、令和 1 1 年度から収支差額が赤字に転落し、さらにその 3 年後の令和 1 4 年度から当面約 1 0 億円の赤字が見込まれている。インフラの老朽化、地域経済の底上げ、人口維持等様々な課題が山積する。本市の今後の対策について、見解を問う。		

発言順位	4	議 員 名	梅 田 宏 希 (公 明 党)
発 言 事 項	1 物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の活用について (1) 交付金の活用方針について (要旨) どのような事業に活用するのか。また、具体的な実施時期や対象者の範囲について問う。 (2) 子育て世帯への物価高対策としての活用について (要旨) 物価高の中で、困難を抱える家庭を支える施策の拡充が期待される。子育て世帯向けの追加支援策を検討しているかを問う。 (3) 高齢者・障がい者等への支援について (要旨) 買物支援・移動支援事業の充実、電気代助成、配食サービス支援などの支援策を問う。 (4) 地域経済支援との連動による相乗効果について (要旨) 生活者支援と経済活性化を同時に達成する仕組みが求められると考えるが、市の考えを問う。 (5) 周知と申請手続きの簡素化について (要旨) 支援策を広く周知する方法、また、申請不要のプッシュ型支給、マイナンバーや住民基本台帳情報を活用した簡素化と迅速化について問う。 2 大久保北部の多面的整備について (1) 明石サービスエリアへのスマートインターチェンジ整備の検討状況について (要旨) 市として、これまでどのような協議や調査を行い、国・県・N E X C O西日本と協議したかについて、具体的に問う。 (2) 石ヶ谷梅林など自然環境への影響と配慮について (要旨) スマートインターチェンジ整備に伴う梅林や公園環境への影響評価と景観保全・植生保護に向けた方針や配慮についての対応を問う。 (3) 市有地里山の利活用と市民参画の推進について (要旨) どのような将来構想を持っているのか。また、トレッキングコース、環境学習、自然体験活動等の利活用について問う。 (4) 防災機能との連携と災害時の利活用について (要旨) 明石サービスエリアへのスマートインターチェンジを防災インフラとして活用し、石ヶ谷公園を含めた災害対応体制の強化にどう位置付け、広域避難や支援物資輸送の拠点化を図るのか、構想を問う。		

発言順位	4	議 員 名	梅 田 宏 希 (公 明 党)
発 言 事 項	(5) 市民・民間・NEXC O西日本等との連携と今後の協議体制について (要旨) 近年、P a r k－P F Iや民間投資活用、NEXC O西日本等との連携モデルがある。観光施設、商業施設、休憩施設、防災拠点等の整備運営を協働して実現するケースが増えた。市の見解を問う。 3 小中学校におけるいじめ対策の体制整備について (1) 本市のいじめの現状認識と分析について (要旨) 近年、教職員に見えづらいいじめの傾向が強まっている。一向に減らないいじめの実態の分析と把握について、全国的な傾向と比較も含めて問う。 (2) 未然防止と早期発見に向けた取組の評価と課題について (要旨) 施策の成果と課題や、現在の体制の充足度等を踏まえ、深刻化する前の兆候と対応について問う。 (3) ネットいじめを含む新たないじめへの対応力強化について (要旨) ネット見守り活動や情報モラル教育の内容と成果、I C T活用の相談体制や見守り機能の強化を問う。 (4) 保護者・地域・関係機関との連携体制の現状と改善について (要旨) 現時点での地域連携の実効性と課題をどのように捉えているかを問う。 (5) 今後の総合的・計画的な対策の展開について (要旨) デジタル活用による子ども同士の関係改善・早期対応・相談支援の実践はどう進めるのか。未来志向のいじめ対策の方向性を問う。		

発言順位	5	議 員 名	山 中 裕 司 (市 民 の 会)
発 言 事 項	1 災害時における避難所の生活環境の整備について (1) 災害関連死の対策について (要旨) 災害による直接的な死ではなく、避難生活中に亡くなる災害関連死は、過去にも繰り返されている。長期の避難生活による肉体的・精神的な負担を少しでも減らすために、災害関連死の防止策が必要だと考えるが、市の見解を問う。 (2) 避難所トイレの確保と衛生管理について (要旨) 災害発生時は、上下水道が使えなくなるため、避難所での災害用トイレの確保が不可欠である。女性、高齢者、子ども、障害者等、多様な立場の人が安心して使えるトイレ環境の整備やおむつ替えスペースの設置も重要と考える。防犯も含めた誰もが利用しやすい避難所トイレの対策が必要だと考えるが、市の見解を問う。 2 物価高騰による子育て世帯の生活支援について (1) 米の価格高騰対策について (要旨) 米の値段の上昇は、低所得層の子育て世帯の困窮を深めている。物価高騰対策支援として子育て世帯にお米ギフト券等を配付できないか、市の見解を問う。 (2) こども食堂の物価高騰対策について (要旨) 物価高騰によりこども食堂利用者は増加しているが、米や野菜まで値上がりし、こども食堂の運営が厳しくなっている。子どもの居場所となっているこども食堂の安定的な活動を支援するため、助成金の増額や米の配付など緊急対策が必要だと考えるが、市の見解を問う。		

発言順位	6	議 員 名	寺 井 吉 広（明石かがやきネット）
発 言 事 項	1 魚住東部農用地区について (1) 新幹線車両基地計画の経緯と対応について (要旨) 計画が中止に至った経緯はどうか。その際、市は説明責任を果たせたのか。また、地権者、地元住民への情報提供の在り方は適切だったのか。 (2) 農業振興地域としての継続性について (要旨) 現在、農業継続が困難な状況になっていることに対する市の認識はどうか。 (3) 今後のまちづくり、土地利用方針について (要旨) 市街化区域への用途変更の可能性はどうか。また、地権者、地元住民との意見交換の場の設置が必要ではないか。 2 本市の部活動地域展開について (1) 本市における部活動の地域展開に関する現状認識と課題について (要旨) 現時点での市内中学校における地域展開の進捗状況はどうか。また、周辺自治体と比較した際の遅れに対する市の認識はどうか。 (2) 今後の対応方針とスケジュールについて (要旨) 地域展開に向けた今後のロードマップの策定状況はどうか。また、財政的・人的支援の方針はどうか。 (3) 体制整備と専門性の確保について (要旨) 地域展開を専門的に推進するチーム、担当部署の設置が必要と考えるが、市の認識はどうか。		

発言順位	7	議 員 名	正 木 克 幸 (明石維新の会)
発 言 事 項	1 様々な形での民間のさらなる活用について (1) 内閣府が推進する成果連動型民間委託契約方式（P F S）の活用について （要旨）民間提案制度などの新たな取組を進める一方で、さらなる手法としての成果連動型民間委託契約方式（P F S）の導入について、市の見解を問う。 (2) 空き家対策について （要旨）行政だけでは解決が困難な空き家対策として、民間団体との連携や協定締結について、市の見解を問う。 (3) 居住支援について （要旨）住宅確保要配慮者に対する居住支援について、本市の現状と今後の展望を問う。 2 近隣自治体との連携について (1) 今後の公共施設などの在り方について （要旨）現在、市において公共施設配置適正化計画（第2期）の策定に向けて取り組んでいる。今後、人口減少社会が進行する中、近隣自治体との連携は必要だと考えるが、市の見解を問う。 3 適正な職員配置による人材の活用、組織力の強化について (1) 本市技術職員の配置について （要旨）多種多様な技術職員の配置は適材適所で行われているのか、市の見解を問う。 (2) 市内産業の活性化のための人員について （要旨）市内事業者のニーズを把握した上で、政策に反映できる体制は整っているのか、市の見解を問う。		

発言順位	8	議 員 名	出 雲 有希子（自由民主党明石）
発 言 事 項	1 明石市立市民病院の今後について (1) あり方検討有識者会議の報告を踏まえて、市民病院の今後について、本市はどう考えるのか。 （要旨）建て替えるのか、それとも建て替えないのかというのが大前提としての問題だが、市長の決断はどうかを問う。 (2) 建て替えをすることで、財政の問題をどう考えるのか。 （要旨）建て替えについても莫大な事業費が必要となり、運営していく上でも莫大な資金が必要となるが、どう考えているのかを問う。 2 本市の観光施策について (1) ふるさと納税の返礼品において、観光に寄与しそうなものとその割合について （要旨）他の市町ではふるさと納税の返礼品において、物品だけでなく、現地消費するものに力を入れているように聞く。本市の現地消費の返礼品の現状と、今後について問う。 (2) インバウンドについてどう考えているのか。 （要旨）他の市町ではオーバーツーリズムなどとも言われ、多くのインバウンド需要で盛り上がっているとも聞く。本市のインバウンド対策について問う。		

発言順位	9	議 員 名	尾 倉 あき子（公 明 党）
発 言 事 項	1 明石港周辺の利活用でにぎわいの創出を (1) 明石港周辺の再整備の進捗状況について （要旨）海のまち明石として、明石港周辺の再整備の進捗状況について聞く。 (2) 明石港周辺の利活用によるにぎわいの創出について （要旨）これまで明石港周辺のにぎわいづくりについて、幾度となく質問をしてきたが、一向に進んでいない。東外港地区も暫定利用で取り組むことから明石港周辺の高速船乗り場、明石市公設地方卸売市場水産物分場、錦江橋までの海のラインも暫定利用し、にぎわいの創出に取り組まないか。 2 手話言語のさらなる普及と利用促進について (1) 本市の取組の現状について （要旨）手話言語・障害者コミュニケーション条例を制定した本市の取組の現状を聞く。 (2) 企業等への手話通訳者の派遣で手話言語のさらなる普及と利用促進について （要旨）昨年4月、改正障害者差別解消法により合理的配慮の提供が義務化された。インクルーシブなまちづくりに取り組む本市として、企業等への手話通訳者の派遣体制の拡充について聞く。 3 高校卒業後の医療的ケアを必要とする方々への切れ目ない支援について (1) 生活介護事業所等への支援体制について （要旨）高校卒業後の医療的ケアを必要とする方々への切れ目ない支援として、生活介護事業所等への補助金を含めての支援体制が必要と考えるが、本市の見解を聞く。 4 路上喫煙防止対策について (1) 本市の路上喫煙防止対策について （要旨）本年4月、尼崎市が条例改正により路上喫煙対策を強化したが、本市の現状について聞く。 (2) 受動（路上）喫煙防止条例の制定について （要旨）近隣市において、大阪・関西万博を機に路上喫煙防止対策が強化されている。本市においても、主要駅周辺等では歩きたばこなどの路上喫煙が多く、健康への影響を懸念する声が寄せられていることから、市独自の条例の制定について聞く。		

発言順位	10	議 員 名	山 下 祥 （市 民 の 会）
発 言 事 項	1 「海のまち」として市民の命を守る施策について (1) 大蔵海岸における空洞対策の安全確保状況について (要旨) 昨年11月に、舞子海岸で地中の一部から空洞が見つかったことをきっかけに、同構造の大蔵海岸においても調査と立入り制限が行われている。今年3月には、専門家を招聘した大蔵・舞子海岸の空洞対策検討委員会の第1回会合が行われたが、大蔵海岸の安全性についての現状と本市の見解を問う。 (2) 今夏開設される海水浴場の安全対策について (要旨) にぎわい創出と同時に、安全・安心の「海のまち」であってほしいと考える。今夏の市内海水浴場における具体的な安全対策を問う。 (3) ライフジャケットレンタルステーションを設置しないか。 (要旨) 2012年、愛媛県西条市で保育園のお泊まり保育中に、増水した加茂川に流されて当時5歳の男児が命を落とす事故が起きた。2018年に終結した裁判では、学校や園、子ども会側がライフジャケットを装着させておく義務が認定された。全国から注目を集める香川モデルを参考に、市が学校や団体等にライフジャケットを貸し出すライフジャケットレンタルステーションを本市でも設置しないか。また、次のステップとして、児童や保護者への啓蒙活動も必要だと考えるが、見解を問う。		
	2 「スポーツのまち」としての魅力を向上させる施策について (1) 令和6年度に実施した移動式バスケットボールコート設置の実証実験について (要旨) 令和6年10月に大蔵海岸公園、令和7年3月に石ヶ谷公園で利用者ニーズの把握等を目的にしたイベントが実施された。アンケート結果の詳細や、実施を通じて確認できた今後の展開可能性等、実験結果と分析を問う。		

発言順位	11	議 員 名	宮 坂 祐 太（明石かがやきネット）
発 言 事 項	1 介護現場の諸課題について		
	(1) 介護支援専門員をはじめとする介護従事者の処遇改善について (要旨) 介護事業所における質の高いサービスを継続的に提供できる環境を整えるためには、介護支援専門員をはじめとする専門性の高い職種の確保・育成・定着支援が重要です。また、福祉分野全般における人材不足が課題となる中、特に介護支援専門員の人材不足が深刻な状況であり、これらの課題解決の鍵を握るのが、資格の取得及び更新に対する支援、そして処遇改善だと認識しています。本市ではこの間、介護・障害福祉分野資格取得支援助成金の対象拡充や、介護支援専門員等の待遇改善に関する国への要望活動等に取り組んできました。昨年度より開始した本市独自の介護支援専門員継続支援給付金についても、当初想定を上回る交付申請があったとお聞きしています。引き続き、国への要望を継続的に行うのはもとより、市独自事業のこの間の検証を踏まえた改善や千葉県柏市の事例を参考に、介護支援専門員処遇改善事業補助金を交付するなど、さらなる対応が必要と考えます。市の考えをお伺いします。 (2) 介護現場におけるカスタマーハラスメント対策について (要旨) 介護現場においては、利用者やその御家族等からのハラスメントを苦にした介護従事者の離職を防ぎ、介護従事者が安心して働くことのできる環境を整えていくことが重要です。兵庫県福祉部高齢政策課が作成しているハラスメントの具体例等を記したチラシは、介護現場から利用者に説明する際に使いやすいとの声があり、好事例として全国に紹介されています。本市でも、パンフレット「よくわかる介護保険」の中で、介護従事者へのハラスメントについて啓発していただいていることは認識していますが、新規・更新・変更を問わず、市から要介護・要支援認定結果通知書を発送する際に県作成のチラシを同封したり、市として相談窓口を開設したりするなど、さらなる取組が必要と考えます。市の考えをお伺いします。		

発言順位	12	議 員 名	高 尾 秀 彰（明石維新の会）
発 言 事 項	1 人口減少、少子化問題の今後の取組について (1) 人口減少、少子化問題の本市の取組について (要旨) 先日、国が発表したデータによると、予想をはるかに超える早さで出生率が下がってきている。明石市は人口増加傾向にあるが、いずれ人口減少に向かうと人口推計データにある。現段階から自治体独自の対策が必要であると考えるが、市の見解を問う。 (2) まちの活性化、少子化対策にもつながる取組について (要旨) まちの活性化と少子高齢化対策として、老若男女問わず出会いの場の創出や、カップルが成立するような取組を本市においても企画してはどうか。市の見解を問う。 (3) 若者の命、妊娠や出産を脅かす病気の啓発について (要旨) 若者の命や妊娠、出産を脅かすリスクの中に子宮頸がんがある。この病気に対する取組の一つに予防接種があるが、接種に関する相談を受けることがある。接種状況とワクチンの効果等、市民への周知・啓発について問う。 (4) 若者の命、妊娠や出産を脅かす病気の教育について (要旨) 子宮頸がんの予防となるワクチン接種の対象が小学6年生～高校1年生と限られている。接種を強制するわけではないが、対象となる年代の理解や知識を深めるためにも、特化した教育が必要と考えるが、市の見解を問う。 (5) 少子化対策の重要な取組の一つである不妊治療に対する今後の支援について (要旨) 少子化対策には、不妊治療への支援も重要であると考える。以前にも不妊治療について一般質問をしたが、進捗と今後の取組について問う。 2 伝統文化を生かしたまちのにぎわいづくりについて (1) 明石市の伝統文化について (要旨) 伝統文化の現状、取組について問う。 (2) 伝統文化の保存継承の支援について (要旨) 伝統文化の保存継承の支援、今後の取組、災害時の対策・対応について、市の見解を問う。 (3) 伝統文化の魅力発信の取組について (要旨) 国外からの観光客が増えている昨今、日本の伝統文化を目的として訪れる人も多いと聞く。本市に興味を持ち、国内外問わずより多くの方に訪れてもらえるよう、伝統文化の魅力を幅広く展開していかないか。市の見解を問う。		

発言順位	12	議 員 名	高 尾 秀 彰（明石維新の会）
発 言 事 項	(4) 食文化の体験をふるさと納税に活用できないか。 （要旨）以前、民間ホテルが江戸期に明石藩士が食したというメニューを、郷土資料を基に再現され話題となった。食においても歴史に触れ、明石を楽しんで堪能してもらえるようなプランニングはできないか。市の見解を問う。		

発言順位	13	議 員 名	井 藤 圭 順（自由民主党明石）
発 言 事 項	1 就学前施設について (1) 待機児童の現状について (要旨) 厚生労働省の発表では、2024年の日本人の出生数が68万6,061人となり、初めて70万人を割り込んだ。本市の人口は、12年連続で増加しているが、就学前児童数については減少傾向になっている。一方で、待機児童数は微増となっていることから、今後の動向を含め、現状について、市の見解を聞く。 (2) 就学前施設の今後について (要旨) 明石市立就学前教育・保育施設再構築基本計画が見直され、昨年度に公立幼稚園全園が認定こども園化された。一方で、公共施設配置適正化計画は、今年度に第2期計画を策定予定であるが、市立就学前施設の老朽化は進んでいる。現状の待機児童解消のためには必要な施設であるが、持続可能性の観点からも、今後について、市の見解を聞く。 2 神戸マラソンについて (1) 本市域（大蔵海岸）までのコース延伸に係る現状の取組について (要旨) 神戸マラソンのランナーの募集も締め切られ、いよいよ本市域（大蔵海岸）までコースが延伸されるが、本市の現状の取組について問う。 (2) 神戸マラソンの今後の取組について (要旨) 本市として、神戸マラソン2025については、安全に開催することを最優先に考えているが、来年度以降の取組について、市の見解を聞く。		

発言順位	14	議 員 名	河 村 和歌子（公 明 党）
発 言 事 項	1 気候変動による自然災害の本市の対応について (1) 台風・豪雨災害に対するこれまでの取組と今後の課題について (要旨) 本市における台風・豪雨災害へのこれまでの取組と、近年の気候変動による異常気象を踏まえた重点的な課題を問う。 (2) 落雷・突風・ひょうを含む突発的災害への備えについて (要旨) 近年は、台風や豪雨だけでなく落雷・突風・ひょうといった突発的な気象災害も増えている。本市でも昨年、ひょう被害に遭った市民が多数いる。突発的災害への備えとして、どのような対策を進めているのかを問う。 (3) 学校における落雷事故への安全対策について (要旨) 近年、部活動中の落雷事故の報道を耳にする。こどもの命を守るために、本市の学校における落雷事故への安全対策を問う。 2 本市における不妊治療の支援について (1) 本市の不妊治療支援の状況について (要旨) 国において、2022年から不妊治療の保険適用が開始になり、不妊治療を望む男女の負担が軽減された。本市においては、不妊治療ペア検査助成事業を行っている。支援の現状を問う。 (2) さらに不妊治療の支援の充実について (要旨) 近隣市町では、不妊治療の保険適用内外で一般不妊治療と特定不妊治療の助成を実施している。本市でも不妊治療への助成を拡充する考えはないか、市の見解を問う。		

発言順位	15	議 員 名	中 川 夏 望 (市 民 の 会)
発 言 事 項	1 学校給食の充実について (1) 小学校給食の残食の実態を把握し、配分を検討しないか。 (要旨) 本市の小学校給食では、中学年（3、4年生）の目標栄養量等を設定し、そこから高学年と低学年に一定の比率で分けている。この配分に問題はないのか。学年別の残食の実態を調査し、適正な配分がされているのか調べるべきではないか。また、担任向けにアンケートを実施し、現状を把握してはどうか。本市の見解を問う。 (2) 十分に栄養が摂取できる量の給食を提供しないか。 (要旨) 本市において無償化となっている中学校給食は量が少ないとの声を聞く。本市において提供される給食のエネルギー量は、小学校も中学校も学校給食摂取基準を下回っている。実態を調査し、十分な量を提供しないか。本市の見解を問う。 (3) さらに物価が上がっても質を下げない給食を提供しないか。 (要旨) 物価高騰は収まりそうもなく、今後も食料品の値上がりが想定される。今年度も食材価格高騰に伴う学校給食費に対する公費助成の予算が組まれているが、それでも追いつかない場合、補正予算を組まないか。本市の見解を問う。 (4) 小学校給食の無償化が実施されても、十分な質と量を備えた給食を提供しないか。 (要旨) 令和8年4月から小学校給食の無償化が始まる。国で予算措置されても、十分な質と量を備えた給食を維持するのは市の責務であると考えている。もし国からの予算が少なく、十分な給食が用意できなければ、足りない分の予算は市で負担することを検討しないか。本市の見解を問う。		
	2 国が提示する「保育政策の新たな方向性」について (1) 3歳児の待機児童をどう解消するのか。 (要旨) 本市の待機児童は昨年度から6名増加して56名となった。今年度は小規模保育事業所を7施設整備するとのことだが、小規模保育事業所は0歳から2歳までの児童を対象としており、保護者は3歳の時に、また新たな園に入園申込みをしなければならない。本市は3歳児の待機児童が2番目に多く、新たな園の受入枠に余裕はない。3歳児の待機児童対策としてどのようなことを検討しているのか。本市の見解を問う。		

発言順位	15	議 員 名	中 川 夏 望 (市 民 の 会)
発 言 事 項	(2) 保育施設における午睡（お昼寝）の対応について （要旨）保育所保育指針や幼保連携型認定こども園教育・保育要領では、睡眠時間はこどもに合わせ、一律にならないよう配慮が求められている。公立保育施設では一律にならないよう配慮されているのか。また、民間の保育施設でも配慮を求める通知をしないか。本市の見解を問う。 3 財政のさらなる見える化について (1) インフラの現状とこれからの更新予定を市民に分かりやすく公開しないか。 （要旨）公共施設配置適正化計画では、インフラはライフサイクルコストで対応するとのこと。本市のインフラがボロボロなのであれば、重点的に予算をかけるべきではないか。そうでないのであれば、その根拠資料を市民が理解しやすいように公開すべきではないか。本市の見解を問う。 (2) 今後市政でやることとやらないことを市民に伝わる形で示さないか。 （要旨）市民の方から財政に関する不安の声を聞く。今の福祉施策を継続しながら、老朽化が進む施設の修繕や新しい施設の整備を全て行くと、当然財政は破綻する。何を続けて何を止めるのかを示さない限り、市民は安心できないのではないかと。本市の見解を問う。 (3) 財政白書の人口推移を達成するための施策を示さないか。 （要旨）人口推移は財政見通しにおける重要な指標である。計算基礎としているSDGs前期戦略計画の人口推計では、合計特殊出生率について、2030年に1.8、2040年以降に2.07と目標値で設定しているが、今のままでは到底達成できない。今後人口増が見込める施策を計画しているのか。そうでなければ財政の見積りは目標ではなく、根拠のある数値を用いるべきではないか。本市の見解を問う。		

発言順位	16	議 員 名	灰 野 修 平（自由民主党明石）
発 言 事 項	1 中学校部活動の状況について (1) 中学校部活動の状況について （要旨）休日の中学校部活動の地域展開が進む中で、本市の学校部活動はどうしていくのか、市の考えを聞く。 (2) 中学校部活動における設備や備品の状況について （要旨）市内中学校部活動における設備や備品の現状と課題について、市の考えを聞く。 (3) 中学校吹奏楽部における楽器と練習場所の状況について （要旨）特に高額なものが多い吹奏楽部の楽器であるが、過不足など問題はなにか。また、練習場所についても問題はなにか。現状と課題、今後の取組について、市の考えを聞く。 2 自転車通学中のヘルメット着用義務化について (1) 自転車通学中のヘルメット着用義務化について （要旨）通学時における生徒の安全確保と交通安全意識の向上を目的に、自転車通学を行う全ての学生に対して、ヘルメット着用を自転車通学の許可条件としてはどうか。また、自転車通学時の保険についての考えも併せて、市の考えを聞く。 3 災害時の避難所運営について (1) 避難所の質の向上について （要旨）避難所において、避難者の健康が維持されることは重要なことである。本市の避難所における生活環境の確保の取組を聞く。 (2) 避難所におけるトイレの確保・管理について （要旨）災害時の避難所におけるトイレをめぐる問題が指摘されている中で、本市の避難所におけるトイレの改善に向けた取組を聞く。		

発言順位	17	議 員 名	黒 田 智 子 (市 民 の 会)
発 言 事 項	1 こども支援活動への支援について (1) あかしこどもサポーター制度をつくらないか。 (要旨) 「こどもたちのためにできることがあるならしたい」との声を聞く。明石のこどもたちを応援したい人・団体の分かりやすい登録制度をつくり、こども食堂や学習支援、放課後児童クラブ等でのボランティアなど、できる活動や支援のマッチングをしてはどうか。 (2) 支援団体やボランティアとの情報交換・意見交換ができる定期的な場づくりをしないか。 (要旨) こども食堂運営者や不登校支援団体の方から「市内の横のつながりが欲しい」「定期的な情報交換の場が欲しい」などの声が寄せられている。支援者同士の交流会やネットワークづくりをしてはどうか。 (3) 同じような境遇の保護者同士の交流会ができないか。 (要旨) 不登校や発達障害を含む障害や性的マイノリティなど、多様なこどもたちがいる。同じような悩みを抱える保護者同士の交流会を開催できないか。市が企画することで、より多くの保護者につながる機会を提供することができ、より多くの孤独・孤立を解消できると考える。 (4) こども応援助成金について (要旨) 年1回、春に募集をしているが、年度が変わってすぐの申請が難しいケースもあると聞く。新たな取組を始めようとしても翌年の春まで待たなければならないため、有益な活動なら、いつからでも活動ができるよう、支援ができないか。 (5) ファンドレイジング（資金調達）の講習会を開催しないか。 (要旨) こどもを支援する団体が持続的に活動するためのファンドレイジングを学ぶ講習会を開催してはどうか。それぞれの団体が持続可能な活動に向け、寄附や会費、助成金、補助金などの財源を獲得する手段を手に入れることは有意義だと考える。		
	2 学校への太陽光パネル設置について (1) 昨年度の5倍の予算で設置する意義について (要旨) 明石市独自の奨学金制度、こども夢応援プロジェクトの予算削減をする一方で、学校への太陽光パネルの設置は5倍の予算（1億6,500万円）になっている。それだけの予算をかけて設置する意義を問う。		

発言順位	17	議 員 名	黒 田 智 子 (市 民 の 会)
発 言 事 項	(2) ライフサイクルコストで考えた市の財政への影響について (要旨) 設置費用については、設置後の発電により購入する電力量が減ること、数年で元が取れると聞いている。設置費用だけでなく、維持・運用にかかるランニングコスト、修繕費用、解体・処分費用なども含めたライフサイクルコストで考えた際に、市の財政への影響はどの程度あるのか。市の見解を問う。		
	3 明石サービスエリアへのスマートインターチェンジ設置について (1) 本当にスマートインターチェンジは必要なのか。 (要旨) 大久保インターと玉津インターのわずか4. 3キロメートルの区間に、さらなるインターチェンジが必要なのか。市民の方から、不要との声が多数寄せられている。市の認識を問う。 (2) 石ヶ谷公園の梅園は守られるのか。 (要旨) 5月3日付の神戸新聞に、丸谷市長の発言として「スマートインターチェンジの検討は石ヶ谷公園の梅園エリアだが、私が守りたいのは第二神明道路よりも南のエリア」との記載があった。梅園は、市長が守りたい自然ではないのか。梅園はなくなるのか。 (3) スマートインターチェンジと大久保北部市有地の利活用について (要旨) スマートインターチェンジと大久保北部市有地は距離が近く、また令和4年度から行った市の調査も同時期だったため、セットのように感じている市民が一定数おられる。スマートインターチェンジと大久保北部市有地の利活用の関係はどのようなものなのか。市民の混乱を招かないよう、説明を求める。 (4) 少子高齢化、人口減に対応していく時代の流れと真逆ではないか。 (要旨) 人口増が続いている明石も、数年内に人口減に転ずる見込みだ。人口減少となり、担い手も財源も少なくなる中、これまでどおりの公共施設やインフラを維持していくことは難しく、明石市でも全国と同様に公共施設配置適正化を進めている。スマートインターチェンジの設置は、時代の流れと逆行しているのではないのか。 (5) 財政白書を活用し、市民と共に考えないか。 (要旨) 丸谷市長は、財政白書について「限りある財源でどんなまちをつくっていくか、市民と一緒に考えるために活用していきたい」と述べられている。限りある財源で、山積する課題の中で優先してスマートインターチェンジを設置することを市民が望むのか。市民と一緒に考える機会をつくってはどうか。		

発言順位	18	議 員 名	上 田 雅 彦 (市 民 の 会)
発 言 事 項	1 交通弱者の移動手段向上について (1) 交通弱者の実態把握について (要旨) 明石市東部、特に明舞団地周辺において、坂道・狭路などの地形的制約によりバス停までの移動すら困難な交通弱者（高齢者・障がい者など）が多数存在する現状について、市としてどのように把握しているか。過去に実施した現地調査やヒアリングの有無も含めて、見解を問う。 (2) 地域ニーズ調査（アンケート）の実施について (要旨) たこバスの東部エリア延伸などを検討するに当たり、交通弱者の声を客観的に収集する手段として、市による地域住民向け交通ニーズに関するアンケートの実施について、見解を問う。 (3) 移動支援サービスにおける税の公平性について (要旨) たこバスが東部エリアに未導入であることにより、同じ税負担をしている市民間で移動支援サービスに格差が生じているとの意見がある中、本市の税の公平性の観点について、見解を問う。 (4) 松が丘エリアの時計回りルート復活について (要旨) 現在、神姫バス 80 系統（明舞循環）が松が丘地区を反時計回りで運行しているが、かつて存在していた時計回りルートを復活させることによって交通弱者の支援が期待される。バス事業者との調整や市の支援の可能性について、見解を問う。 (5) 新たな移動支援策の導入可能性について (要旨) 交通弱者のファーストワンマイル・ラストワンマイル問題を解決するため、住民運営型バス（例：愛知県瀬戸市）、配車アプリによるタクシー相乗り支援、オンデマンド交通などの新たな施策導入の可能性について、見解を問う。 (6) バス共通寿優待乗車証の利便性向上について (要旨) 高齢者の多くが現金での支払いを余儀なくされており、ＩＣカードを誤って利用すると通常料金が引かれるなどの実態がある。市はこの状況をどのように把握し対応しているのか。また、システム連携が困難な中でも、差額返金制度などの救済措置を講じる考えはあるのか、見解を問う。 (7) バス共通寿優待乗車証のデジタル化に向けた国の補助金活用について (要旨) 国土交通省や内閣府では、地域交通へのＤＸ導入に対する補助制度がある。明石市単独では困難な場合でも、近隣自治体と連携して国庫補助金の活用を図ることで、バス共通寿優待乗車証のＩＣカード・スマホ連携を含めた利便性向上が可能ではないか、見解を問う。		

発言順位	18	議 員 名	上 田 雅 彦 (市 民 の 会)
発 言 事 項	2 子どもの受動喫煙防止について (1) 受動喫煙に関する市民の苦情・相談の現状について (要旨) 受動喫煙に関して本市に寄せられている市民からの苦情や相談の件数及び内容のうち、特に駅前、公園、保育施設周辺といった子どもと接触する機会の多い場所での実態についての見解を問う。 (2) 子どもへの健康リスクに関する認識について (要旨) 受動喫煙が子どもに与える健康リスク、特に乳幼児突然死症候群（SIDS）や妊婦・胎児への影響などについて見解を問う。 (3) 庁内連携による受動喫煙対策体制の整備について (要旨) 受動喫煙対策が環境・健康・子どもなど多分野にまたがることを踏まえ、庁内での横断的な体制づくりを今後どのように進めていくのか、その必要性和方向性に対する見解を問う。 (4) 宣言型条例による理念の発信について (要旨) 子どもにやさしいまち明石として、罰則に先んじて理念を示す宣言型条例の導入について、子どもの健康を守る観点からどのように考えているのか、その可能性と方向性に対する見解を問う。		

発言順位	19	議 員 名	金 尾 良 信 (市 民 の 会)
発 言 事 項	1 住みなれた地域で安心して暮らせる障害者支援について		
	(1) 日常生活用具給付対象種目への追加について		
	(要旨) 発達障害・精神障害者も対象になる日常生活用具としてイヤーマフ、デジタル耳栓を対象種目にできないかとの障害当事者、家族からの声がある。負担軽減においても給付対象種目への追加について、市の見解をお答えください。		
	2 地域で里親家庭を支える体制のさらなる充実について		
	(1) 障害や発達上の特性を抱えるこどもの課題について		
	(要旨) 障害や発達上の特性を有するこどもが増えている中で、里親家庭への具体的な支援策について、市の見解をお答えください。		
	(2) 里親不在の校区への取組について		
	(要旨) 里親不在の校区への具体的な取組について、市の見解をお答えください。		
	3 住みなれた地域で安全・安心に暮らせる環境づくりについて		
	(1) 児童の通学路におけるハード面・ソフト面の安全対策について		
(要旨) 全国的に通学時の児童の列に車が突っ込むなどの事故が多発し、車の逆走などの事故も起きている。本市においても人口増に伴い、車、バイク、自転車の数が増えており、事故の増加が予測される。その対応について市の見解をお答えください。			

発言順位	20	議 員 名	辻 本 達 也 (日 本 共 産 党)
発 言 事 項	1 大久保北部の環境保全とスマートインターチェンジの設置について (1) 課題について (要旨) どのような課題があるかと考えるか。事業費についてはどうか。認識を問う。 (2) 梅林の保全について (要旨) 梅林保全を前提に整備ルートや総事業費を調査・検討というが、何をもって保全と考えるか。認識を問う。 (3) 2025年5月3日付神戸新聞で紹介された市長の発言内容について (要旨) 「私が守りたいのは第二神明道路よりも南のエリア」と発言したことが紹介されている。認識を問う。 (4) 「対話と共創」について (要旨) 本件については「対話と共創」による取組は行われているのか。認識を問う。 (5) 今後の進め方について (要旨) 認識を問う。 2 明石川のP F A S汚染について (1) 3月議会以降の対応について (要旨) どのような取組を行ったか。行政、事業者、住民、市民団体等が参加する大規模なフォーラムの開催についてはどうか。認識を問う。 (2) 神戸市長との面談メモについて (要旨) 文書管理上問題があったとの認識のようだが、その理由は何か。認識を問う。 (3) 神戸市長に謝罪したことについて (要旨) 市長と理事の見解が違う。改めて認識を問う。 (4) 高濃度の有機フッ素化合物を含む水道水が供給されていた事実について (要旨) 市内一部の地域に一定期間、高濃度の有機フッ素化合物が含まれる水道水が供給されていたことについて、認識を問う。 (5) 農水産物への影響について (要旨) 認識を問う。 3 公共工事の入札について (1) 現状認識について (要旨) 予定価格超過による失格、不調、中止の発生状況について問う。 (2) 落札者の辞退について (要旨) 認識と今後の対応を問う。		

発言順位	21	議 員 名	中 西 礼 皇（対話の会あかし）
発 言 事 項	1 議案第42号 明石市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定について (1) 指定ごみ袋制度の必要性について （要旨）明石市で指定ごみ袋制度を導入する必要性を問う。 (2) ごみ減量と再資源化の市の責務について （要旨）明石市としての取組が不十分な中で、市民に負担をかけるべきでないと考えているが、市の見解を問う。 (3) 市民の理解について （要旨）市民の中では、指定ごみ袋制度に反対の意見が多いが、市の見解を問う。 2 中学校部活動の地域展開について (1) 市の方針について （要旨）今年度になって重要な点が変更されたが、なぜか。 (2) 市と運営団体、実施主体の役割について （要旨）三者が担う役割と責任について問う。 (3) 費用負担の考え方について （要旨）受益者負担と公的負担の考え方を問う。		

発言順位	22	議 員 名	家根谷 敦 子 (スマイル会)
発 言 事 項	1 日常生活で課題を抱える高齢者のQOL向上について (1) 訪問理美容の助成事業について (要旨) 病気やけがで在宅生活を余儀なくされた高齢者は、外出の機会が限られ、通院やデイサービスが中心となりがちである。衛生面・身だしなみを整える機会を、訪問理美容につなげて取り組むことで、自分らしい日常を過ごせると考える。兵庫県内では、20以上の自治体が訪問理美容の助成制度を行っているが、本市ではまだ取り組まれていない。本市の相談状況や考え方、今後の取組予定について尋ねたい。 (2) 高齢者補聴器購入費助成事業の現状と認知症施策との関連について (要旨) 加齢性難聴による聴力の低下は、コミュニケーションの機会の減少や、認知症の要因でもあると指摘されている。令和2年12月議会での一般質問後、本市は令和3年7月から「高齢者補聴器購入費助成制度」を開始した。これまでの申請件数や本事業の成果、今後の取組予定について尋ねたい。		